

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成23年9月16日

施設名	塩見記念青少年プラザ	所管課室	生涯学習課
-----	------------	------	-------

1. 施設の概要

指定管理者名	青少年育成高知県民会議
指定期間	平成21年4月1日～24年3月31日
施設所在地	高知市小津町6番4号
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><平成22年度主催事業> よさこい納涼花火大会観覧 夏休み親子教室 青少年プラザ将棋大会 青少年プラザ囲碁大会 パソコン教室 高知城英語ガイド講座 クリスマスコンサート(Begin祭) 初歩からのオカリナ教室 オカリナ教室応用編 楽しい打楽器教室</p>
施設内容	<p>バンド、演劇など青少年の自主的な活動や交流・発表の場所、仲間づくりや情報交換の場所を利用者に提供している。 利用開始日：平成16年8月1日 延べ床面積：1086.83㎡ 建築物：鉄筋コンクリート5階建 トークサロン まんが図書室 学習室(個人用) 個人ブース12席、車椅子用2席 学習室(グループ用) 14席 多目的室 椅子100席、机60席 音楽スタジオ</p>
職員体制	職員：館長1名 事務局長1名 事務員3名 非常勤4名 合計：9名

2. 収支の状況

		H21年度(決算)	H22年度(決算)	H23年度(予算)
収入	県支出金	16,077,000	16,174,000	16,322,000
	事業費収入	227,200	194,800	203,000
	その他(駐車場収入)	48,000	24,000	24,000
	収入計(a)	16,352,200	16,392,800	16,549,000
支出	事業費	854,735	858,258	923,000
	管理運営費	7,051,323	7,024,011	7,191,000
	人件費	8,149,458	8,199,124	8,435,000
	消費税			
	支出計(b)	16,055,516	16,081,393	16,549,000
収入(a)-支出(b)		296,684	311,407	0
使用料収入		1,219,019	1,104,930	1,195,000

3. 利用実績

(1) 利用者数合計 ※(2)～(5)の計

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	25,295	27,958	24,738	22,459	21,019	24,294

(2) 音楽室利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	3,690	3,969	3,764	3,624	3,545	3,718

(3) 多目的室利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	4,669	5,476	4,840	4,086	4,291	4,672

(4) 学習室(団体)利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	964	919	703	536	497	724

(5) 学習室(個人)・トークサロン・まんが図書室利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	15,972	17,594	15,431	14,213	12,686	15,179

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
開館日数	305	307	306	306	306	306

4. 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者の年齢や施設に対するニーズ等に応じて、施設側からの関与の度合いに工夫を持たせるなど、利用者が学習や趣味(バンド活動や読書など)を満喫し、放課後や休日の「居場所」として、快適に過ごせるように配慮している。 ○「生涯学習」の視点から、小学生から高齢者までの幅広い年齢層に対して、利用者のニーズにあわせた主催事業を実施している。(平成22年度はフラメンコ教室を廃止し、オカリナ教室応用編を新規開発) ○高知県聴覚障害者協会の講演・研修の開催にあたって、小津高校から研修機器等の借り入れや駐車スペースの確保、会議開催支援(マスクミヤ地域へのPR)を積極的に行い、新規利用団体の活動が定着するよう取り組んでいる。 ○主催事業の開催案内は高知新聞伝言板欄に必ず掲載依頼を行っている。(平成22年度は年13回) <p>また、マスクミヤへの後援・取材依頼を積極的に働きかけて、施設のPRに努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小学生対象の「夏休み親子教室」などについては、学校への文書送付だけでなく、電話依頼や学校訪問などを通じて、積極的な参加募集をおこなっている。 ○講座の応募で抽選漏れとなった方に次回案内をハガキで通知し、参加者の増加に努めている。(パソコン教室、オカリナ教室、打楽器教室など)
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○利用者のニーズ把握を行うため、音楽スタジオを使用するグループと懇談会を設けて、機器の配置や使い勝手、音色、使用メーカーなどに関する感想や要望を聞き、改善に努めている。 <p>また、主催事業は事業終了後にアンケートを行い、その内容を参考に次の企画に活かしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○来たるべき南海地震に備えて、施設内の機器の転倒防止策や出火防止策、災害グッズの備蓄方法などを反映した消防計画(地震対策含む)の見直しを行った。 ○主催事業であるクリスマスコンサートで、オカリナ教室参加者の発表機会を確保するなど、自主活動の拡大に向けた協力・支援を行っている。 <p>また、将棋大会に参加していた大学生(開設当初は中学生)が企画した中高大学生対象の将棋大会のPRや大会支援が継続されており、新たな参加者が増加するなど、施設を中心とした青少年のネットワークが広がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施設を快適に利用してもらう為に、開閉館時に職員が建物内外の点検、自転車の整理、館内清掃を励行するとともに、備品使用後の点検・清掃・収納を行い、次回利用に備えている。

<p>③施設の運営について</p>	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間の事業計画の中で、各プログラム毎の担当者を決め、利用者への対応に支障のないように努めている。また、変則勤務の職員・パートのため、施設の統一した利用ルールの周知や業務引き継ぎを文書による回覧で徹底している。 ○建物入り口の花壇について、同館に入館している少年サポートセンターを通じ、春野高校及び高知農高の協力を働き掛けた結果、両校の支援のもとに整備できるようになった。 また、館外周辺や前庭の樹木は、職員が年4回程度剪定や大掃除を行い、景観の保護に努めている。 ○飲食及び喫煙の禁止、貴重品の自己管理を促す文書などを掲示し、ルールの徹底を図っている。また、利用者の退館の際に”忘れ物がないよう”注意喚起の声かけを励行している。自転車盗難防止のため、一日に数度は駐輪場を点検し、施錠を喚起している。 ○ホール・スタジオの備品、機材を大切に使うため、使用方法を職員が利用者に伝えることにより、修繕の頻度が少なくなっている。 ○青少年健全育成研修会やアドバイザー協議会の研修、青少年育成市町村民会議等に職員を積極的に参加させて、関係機関との情報共有や職員の資質向上に努めている。
<p>④利用実績</p>	<p>○平成21年度に比較して、1,440人減の21,019人となった。過去2年間と比較すると、減少幅は少なくなっているが、減少傾向に歯止めをかけるには至っていない。 (H20…▲11.5%、H21…▲9.2%、H22…▲6.4%)</p>
<p>⑤収支の状況</p>	<p>○利用者数が1,440人減少したことにより、使用料収入は平成21年度と比較して114千円の減収となった。 管理代行料は、311,407円の剰余金を計上した。 予算額 16,174,000円</p>
<p>総合評価</p>	<p>○年齢や性格等に応じた柔軟な対応を行う中で、児童や生徒の放課後や休日の「居場所」として定着している。</p> <p>○主催事業については、講師の都合や利用者ニーズの変化により一部内容を変更して開催した事業もあったが、概ね事業計画に沿った運営が行われている。</p> <p>○新たに音楽スタジオを使用するグループとの懇談会を開催し、施設の使い勝手や設備機器に対する要望を聞くなど、利用者ニーズの把握に努めている。</p> <p>○利用者に快適に過ごしてもらうために、職員による館内清掃や見回り点検等を定期的実施している。</p> <p>○今後、更なる向上を目指して、以下の取り組みを強化してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平成19年度をピークに施設利用者の減少傾向に歯止めがかかっていない。この状態を真摯に受け止め、その原因を分析するとともに、子どもたちの居場所としての館の役割を積極的に果たしていくこと。 ②文教地区で市街地にも近いという恵まれた立地条件を活かして、平日日中の利用促進や利用申請開始日の緩和などの利用者数の増加に向けて取り組むこと。 ③主催事業参加者の自主活動への展開に向けた支援・協力と、施設を取り巻く利用者のネットワークづくりに努めること。

B

- 【評価の目安】
- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの